

あなたのJ、わたしのJ

J.GARDENの来し方行く末 リターンズ編

来年2026年の5月にJ.GARDEN(以下Jガーデン)は30周年を迎えます。この節目に、あらためてJガーデンを深掘りする連載記事を企画しました。記念すべき第1回のテーマは、当イベントの核ともいえる「ジュネ」。
Jガーデン誕生のきっかけを作った、元『JUNE』編集長の佐川俊彦氏と漫画家のBelne(ベルネ)氏のお二人を中心に、
Jガーデン旧代表、そして現在の代表を務める実行委員による座談会の様子をお届けします!

※ジュネの表記について…雑誌名は「JUNE」、雑誌名ではないジャンルや感性などは「ジュネ」としています。

Jガーデン誕生!

——まず、Jガーデン誕生のいきさつをベルネさん佐川さんと、初代代表の藤本さんにかがたいです。きっかけはベルネさんだったと聞いていますが?

ベルネ 同人誌とジュネをコネクトすると、おもしろい化学反応が起きるのではないかな?、雑誌『JUNE』*編集長の佐川さんと「コミティア*」代表(当時)の中村さんをお呼びして、「ジュネのイベントをやりたいか?」と持ち掛けてみたんです。そしたら、中村さんに、今「コミティア」にそんなゆとりはないと却下されて……。でも、その日のうちに、やることに決まったんですよ。

——えっ?
藤本 そのお話の場に、中村さんが私を同席させたことで……。中村さんは「僕は男だからできない」と言っていますけど?」
ベルネ 言いましたね。それが、本心かどうかかわからないけど、ジュネがよくわからないうつ。

藤本 コミティアでは今はできないと言われたら私も黙っていたかもしれないですけど、男だからと言われたので、それじゃやる可性能性があるのかなと。

第1回 Theme 「ジュネ」ってなあに?

ベルネ それで、藤本さんが代表としてやる、っていう話になって、たぶん、J.GARDEN(以下Jガーデン)っていう名前までその日のうちに決めたと思うんですよ。

藤本 名前は、ベルネさんが、JUNE GARDENっておっしゃったんだけど、佐川さんが「Jガーデン」がいいのでは?。

佐川 『JUNE』がどうなるかわからなかったし、会社(サン出版)もどうなるかわからなかった。ジュネが「JUNE」を「J」にして、もっと一般的なにした方がいいんじゃないかなと思っただけです。

藤本 『JUNE』編集部出版部の協賛は19回目までと区切りとなりましたが、おかげさまで問題なく「Jガーデン」の名称で続けられています。読みは「ジュネガーデン」のままなんですけどね。

——イベントを企画した理由をもう少し詳しくうかがいたいです。

ベルネ 90年代の初めごろから、『JUNE』本誌が斜めっているというのはいくつとなく感じていて、『JUNE』を盛り上げたいという気持ちがありました。一方で、私がずっと参加している同人誌即売会のジュネジャンルなどはすごく盛り上がりつつあって、このジャンルの潜在的な作家や愛好者はたくさんいるよな〜って思っただけですよ。ただそれでも、ジュ

「ジュネってあんまり攻めと受けってない気がするんですよ」(ベルネ)

「なかった。全く考えてなかった」(佐川)

ネが好きなたちの居心地のいい場所ってあまりなかった。新しい場所が必要なのは、と。要するに、『JUNE』が枯れかけているので、だから、こう、新芽を取って、よその庭に移植して、ここで根を張ってほしいかな、みたいな(笑)。でないと、ジュネって文化なので、滅びるとちよつと困るなと。
佐川 僕は、コミケ*の立ち上げの頃に手伝っていたし、同人誌も大好きなので、そういう即売会とのコラボはいいと思った。あと、パロディがすごい好きだったので、『JUNE』誌のパロディをガンガンやって欲しかった。「フジミ」*とか「間の楔」*とか……。——初回426サークルのうちの約半分は『JUNE』掲載作品のパロディでしたね。現在は『JUNE』のパロディでは参加できないんですが、当時は勢いがすごかった



「June 第8号」
(1979年8月1日発行)

です。出版社が同人誌即売会に関わることにしてはどうだったんですか？

佐川 会社的には、全部やってくれんならうていう、丸投げならみたいな感じで。ただ、現実動き出したら、急にグッズを作るとか言い出して、どうせやるからにはいろいろやってみようって、それでずぼんと大混乱になったりはしたんですけれど。

*1 『JUNE』
1978年にサン出版から創刊された雑誌(当時の誌名は「Comic Juno」)。79年に度休刊後、81年に復刊した(95年に休刊)。日本で初めて大々的に女性向け男性同性愛作品や情報を取った雑誌で、小説メインの「小説JUNE」(1982-2004)のことも多くの作家を輩出した。

*2 コミティア
自主制作漫画誌展示即売会COMMITTIA。創作(オリジナル)作品専用の同人誌即売会。Jガーデン設立当時のコミティア代表が中村公彦(現コミティア会長)で、コミティアはJガーデン初回よりイベント協力として関わっている。
*3 コミケ
日本最大の同人誌即売会「コミックマーケット」の略称。「コミックマーケット」

*4 『コミック』
小説「富士見二丁目交響楽団」シリーズ(秋月こお著)。1992年小説「JUNE」にて連載開始。本編40巻。外伝7巻がKADOKAWAより発行済み。2012年に実写映画化。

*5 「闇の楳」
小説。吉原理恵子著。「小説JUNE」にて連載(1986-87年)。「あいのへまひ」と読む。ドラマCD化、OVA化もされた。

広がっていく ジュネ・BL

——現在、Jガーデンは、ビッグサイトで開催する12000サークル規模のイベントになりました。初回から知っていらっしやるお二人には、今のJガーデンはどのように感じてもらっていますか？

ベルネ 私は、海外の「ミックコンベンション」*1にかなり近づいてきたなという感じですね。商業誌でのファンダム*2が作家と直に「コミュニケーション」を取れるかなり希少な場所になつてるとです。これはファンダムにとってはずいぶんいいところなんだなというのがありますね。作家さんにとっても、息が抜けるというか、ファンが存在を実感できて……。音楽に例えると、「ライブ」の場所になつてらんじやないかなと。昔は、ミュージシャンがCDを出したら次はライブしないとどうのがあったと思うんですが、Jガーデンはそのライブやコンサートの場で、さらにミュージシャン作家がたぐさんいる集合「コンサート」も、そのフェスみたいになつてらんじやないで

すかね？ うん、Jガーデンはファン化してるかなと。

佐川 僕は……。ちよつと前にすごく意識したのが鶴谷香央理さんの『メタモルフォーゼの縁側』*3って漫画で。おばあちゃんと、本屋でバイトしてるBL好きの高校生が友達になつて、それでなんとJガーデンに行くってのがクライマックスの二になつて、それ読んだ時に、こう、すごい、やっつよかったなと思つた。75歳のおばあちゃんと17歳の女子高校生が共通の話題で盛り上がり、そのネタが男同士の恋愛作品！ 女性たちの共通の話題として、すごく貴重なものとしてジュネやBLがあり、しかもそこは現実とも繋がってるし、それから国境を越えるというのもびっくりというか……。もう世界中これから無くなることはない、広がるだけじゃないかなと。

ベルネ あの『メタモルフォーゼの縁側』って

女性同士の話ですけど、これジュネじゃないですか？

——というところ、主役のこの二人の関係はBLではないですよ。

ベルネ はい。でも私にとつてのジュネはそんなんですよ。あの、人間同士の関係性とか、拘泥とか、ぬかるみを超えても到達したいところがあったりとか、そういうのがジュネなので。難しいかもしれないけど、すごくパーソナルに訴える個人的なものなんです、ジュネって。

——なるほど……。

ベルネ だから、今まで何かでその片鱗を見つけてドキドキするだけのものだったものが、こうして発見されて、みんなが書くようになって、みんなが読むようになって、そこから派生してエロスを消費するっていう形が起きたり、それからジェンダーの問題があったり、妖しさみたいなものにとまらせず、そ

Profile



佐川俊彦

編集者、ライター。京都精華大学マンガ学部准教授。サン出版にて雑誌「JUNE」『小説 JUNE』を企画・創刊。著書に『漫画力(まんがちから)』。2024年『JUNE(ジュネ)の時代——BLの夜明け前』を垂記書房より上梓。



Belne(ベルネ)

マンガ家。開志専門職大学アニメ・マンガ学部教授。1976年に秋田書店からデビュー。代表作『異端文書』、『BELNE'S LOVE』シリーズ(同人誌)。京都精華大学で14年間講師を務める。第25回文化庁メディア芸術祭功労賞受賞。



J.GARDEN 事務局

藤本…初代代表
稲嶺…2代目代表、進行
もゆ、日菜子…現代代表・実行委員

れが明るみに出ていく、そういうシーンがある……。あの、シユネってあんまり攻めと受けつけない気がするんですけど。

佐川 なかった。全々考えてなかった。

ベルネ B-1になって初めて攻め受けができて、つまり男女の感覚が出てくるんです。男女の役割が分かれてしまったらもうそれはシユネではないのかなとかもあるわけです。でもB-1って、そのシユネの枷とか決まり事みたいなものとか呪いみたいなものを全部とっ外して、明るくてもいいじゃないか、隠花植物じゃなくてもいいじゃないか、広がっていく。広がっていくっていろんな人がいるんならアプローチしていく、世間にはB-1の形で認められていくじゃないですか。そういう中で、例えば「JUNIE」のおっさんはずうずうしい「シユネじゃなしにわね」って思いますが見てるだけでも、でもそれはそれで、もしかしたらその中に形を変えてシユネの因子みたいなものはあちこちに散りまわって残ってはいるんじゃないかって思ってます。

* 〇 『JUNIE』の「シユネ」について、世界中で開催されてる「JUNIE」のイベント、ゲーム、ポップカルチャーの大規模イベント。企業出展や、交流イベント（ファン同士、作家やクリエイターとファンなど）、作品上映、コスプレなどが行われている。

* 〇 『ファンタム』
漫画やアニメ、小説、ゲーム、アイドル、スポーツなど、ある特定の作品や個人などについて推し（〇）の熱心なファン、および彼らを取り巻く文化のこと。

* 〇 『メタモルフォーゼの縁側』
漫画。鶴谷香央理連載。『JUNIE』の縁側。

連載（2017-2020年）。コミックス全5巻発行済み（KADOKAWA/A5判）。2022年に実写映画化。

* 〇 『おひさま』
テレビドラマ（シリーズ）。2016年に放映された後、連続ドラマとして3シーズン制作され、また映画も公開された。

「Jガーデンは異界!？」



ベルネ 『JUNIE』の女の子のための情報誌だっと思っんですよね。結構、教科書的だったなと思いますね。女の子が自分の求めているものを発見するための、きっかけになるものだったと思っんです。

佐川 うん。

ベルネ 以前に「JUNIE」でも書いたけど、「JUNIE」の、私にしてみればジュニアなんです。中学生向け。物語の基本っていうのは、日常から異界に入っていく、そこから何かをゲットして、日常へ戻っていくっていうのがセオリーですけども、それが本になっているのが「JUNIE」の、イベントになっているのが、「JUNIE」か、「JUNIE」か、「Jガーデン」なんだと思っんです。

佐川 うん。

ベルネ で、イベントとしてはそういう素晴らしい異界を作るかっていう……それが危険なら危険なほげいし。だから「JUNIE」ってすぐハードルの高い、良い異界なんです。

佐川 良い異界(笑)。

ベルネ うん。鬼ヶ島とか、モルドールとか、黄泉比良坂とか、そういうものと一緒なんで

ですよ。その異界で通過儀礼（＝死）を体験して戻ってくるんですよ。みんな。宝物を背負って、何かを失って。

佐川 失うんだ。

ベルネ お財布の中から(笑)。

佐川 対価はちゃんと払う(笑)。

ベルネ そこで、友達ができたり、指導者ができたりとかするんですよ。だから、「Jガーデン」は本当に、ロード・オブ・ザ・リングなイベントだと思っますよ。

もゆ 指輪を見つけないと(笑)。

ベルネ 要するにハードルもある、通過儀礼もある、異界なんです。日だけの。私は、「JUNIE」は、年に4回出現する。オアシスの壁気楼、だっって例えたことがあるんですけど、だから、「また「JUNIE」で会おうぜ」ってなるんですよ。「Jガーデン」もそう。

佐川 うん。

ベルネ だから逆に言うと、スタッフの皆さんは、その、フィールドオフドリームス**のフィールドを作ってるわけなので、だから、あなたが作れば、みんなが……彼らはやってくるので。

佐川 僕は本当に、ここは出会いの場だと思っう。「メタモルフォーゼの縁側」ちょっと象徴的だと思っるのは、主役の女性二人が本屋さんでぼつたりぼつたりのシーンで、それが「Jガーデン」でぼつたりぼつたりのシーンで、さらに言うところ、出会ってほしいし、出会わなくてもいい。本の中だけでもいいし、ネットだけの人もいいかもしれない。けど、僕的にはアナログな場所の良さっていうのがすごくあると思っ。だから、「Jガーデン」は、必要な人がちゃ

んといられる場所になっていけばいいけど、ただ、やってると、右肩上がりにならないと成長してないみたいなのがあるんだけど、単純に大きくなる、参加者を増やすっていうのは違うような気がしています。

日菜子 ただ大きくなるのではなく、幸せを届けるために大きくなる、みたいなことは、実行委員全員が共通で持つてると思っます。「Jガーデン」で幸せになりたいと思っるけれども、何か敷居の高さを感じてる人がいるんならそれを下げてあげたいし、その結果、その人たちが入ってきて大きくなっていくっていうのは、たぶん私たちが目指していく「Jガーデン」の未来だと。年に2回だけの幻の場で幸せになってくださいね、みたいに思っます。

佐川 必要な人が幸せになるための成長らしい。昔はそれを「女性たち」必要な人たちの防空壕**で例えにしちゃったんだけど、今はもう、防空壕より全然大きくなっちゃって、別荘よりも大きくなってる……。

もゆ フェスですね。

佐川 フェスになっちゃったか。そうかそうか、やっぱりロックのイベントか……。

もゆ 演者、バンドもいて、観客もいて、名も知れぬ人がたまに出てきたりする感じも。

佐川 ああ、そういうのもあるし、トラブルもあるし。

もゆ トラブルは嫌ですー！

* 10 『JUNIE』の「ベルネ」について、世界中で開催されてる「JUNIE」のイベント、ゲーム、ポップカルチャーの大規模イベント。企業出展や、交流イベント（ファン同士、作家やクリエイターとファンなど）、作品上映、コスプレなどが行われている。

* 〇 『JUNIE』の「ベルネ」について、世界中で開催されてる「JUNIE」のイベント、ゲーム、ポップカルチャーの大規模イベント。企業出展や、交流イベント（ファン同士、作家やクリエイターとファンなど）、作品上映、コスプレなどが行われている。

* 〇 『メタモルフォーゼの縁側』
漫画。鶴谷香央理連載。『JUNIE』の縁側。

*11 『ファイルド オブ ドリームス』
1989年公開の映画(米)。畑をつぶして野
球場を作ることで往年の名野球選手たちが現
れるというファンタジー作品。

繋がってゆく 『JUNE』の種

——最初に、『JUNE』と同人誌即売会を
合わせると、何か起るんじゃないかとい
うことと、ジュネの接ぎ木をしておきたかっ
たっていう話がありました。その接ぎ木や
種はまだJガーデンに残っていますか？

佐川 僕は今のJガーデンに行けていないか
らよく分からないけど……。

もゆ ぜひ今の姿を見てほしいです。来てく
ださい！

佐川 じゃあ、それは参加して確認するとし
て(笑)。ベルネさんから見たらどうなん
ですか？

ベルネ さすがに、令和になってジュネとい
うものの片鱗って、以前ほど求められてない
かもしれないかなって思うんですけど、でも
明らかに、Jガーデンに行けば見つけられる
ものっていうのがあって……。いま、B.Lと呼
ばれているものっていうのはすごく細分化さ
れていて、大雑把に分けると、女性向け、男
性向け、ポルノ、純愛……。もっと複雑なもの
もあるけど、何かもって新しいものとかって
いうのが浑然一体となっているんだけど、も
ち軸としてはかなりコミティアっぽくなって
きたかなって感じがしますね。オリジナル



B.Lの人たちが自分の作品を書くことを楽
しんでいるっていうのはすごく感じていて、
そのメタなんですけど、私から見ると書いて
いる作品はB.Lかもしれないけど、その人の
作家活動そのものは結構ジュネだよねって思
う、そういうサークルさんが時々います。

——それはどう思う……？

ベルネ その作家活動、要するに、執着とい
うか、自分の作品への拘泥みたいなものって
いうか……。えっと、商業誌掲載の裏本を出し
ている人で、商業誌ではエロエロなのに裏本
はエッチがなかったりするんですよ(笑)。そ
ういう人とか見るとこれはジュネだよって
思うんですよ。私たちが植えた、移植したも
のはそろそろサルノシカケとかついでちゃっ
てもうすぐ枯れるかもしれない。周りは植
林された若木でジャングルになっているし。

「私の中にもジュネって
あるのかも…あーなんか
こみ上げてきた！」(日菜子)

「それがジュネよ」(ベルネ)

まあでもそれはそれで栄枯盛衰なんってい
んじゃないかなとは思っています。自分もやがて
去っていくだろうし。

——ベルネさんずっと昔から描いていた
『JUNE』世代の人たちがいなくなったら
もうジュネはなくなると思いませんか？

ベルネ ジュネってそれぞれの心の中に琴線
があって、他人に定義できないもので、ほかの
人がジュネって思うものと必ずしも同じもの
ではないかもしれないけど、そういう片鱗は
ずっと残るんじゃないかな。で、今Jガーデ
ンがなかったら結構、その、皆さん路頭に迷
うんじゃないかと思うんですよ。ただ確か
なこととしては、ジュネは権威じゃないのよ
うな……。

日菜子 あ、私ジュネがわからない、自分
の中にあるかどうかすらわからないな
んです。『JUNE』は私が生まれる前に休
刊していたし、ジャンルとして捉えればいい
のか形として捉えればいいのか……。自
分が代表をやっているイベントがジュネガー
デンっていうのに、そのジュネがわからない
ことに悔しさとか寂しさとかを感じていた
んです。でも、お話を聞いていて、イベントの
運営やサークルさんの作品を通して私が感
じた愛しさとか美しさって、これがジュネな
のかもしれない、みたいな。なんか私の中
にもジュネってあるのかもって思ったのがすご
い嬉しかったんですよ。…あーなんかこみ上
げてきた！

もゆ ちみっともなかしいよね。

ベルネ それがジュネよ。

日菜子 私たちが今このイベントを通して感

じてほしいなって思っているところ、この美し
さだったり、ちゃんとしてジュネガーデンって
いう名前が繋がっているのかも、今日気づけ
てよかったです。そして、それって、スタッフも
そうだし、書いている人も読んでる人もたぶん
みんなその感覚を持っているんだろなって
思ったら、改めてみんなにこれってジュネだ
よねって思ってもらいたいな……。

ベルネ ありがとー！

佐川 ありがとー！

14年前・Jガーデン10の座談会時と同様、
博識かつ饒舌な大先輩三氏を中心に、話が
どんどん広がっていくスリリングな3時間
でした。大変貴重なお話をありがとうございました。鶴のように得体の知れない「ジュネ」
を内包するJガーデン、これからもみんなの
「幸せの場」であり続けられるようがんばり
ます！

(進行まとめ／稲嶺かおり)

『JUNE』誌、「ジュネ」について、もの
足りない、もっと知りたいという方は、
『JUNE』(ジュネ)の時代——B.L
の夜明け前(亜紀書房刊)もぜひご覧
ください。また「コミティア魂 漫画と
同人誌の40年」(フィルムアート社刊)
では、「コミティア視点からのJガーデ
ン 誕生時の話を読むことができます。